

リフレクションカード 2022年度前期

学科	助産別科
氏名	田中 満由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎助産学Ⅰ	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>学生にとっては国試のための必修科目であり、助産の基盤となる科目である。学生には事前学習の内容や事後学習の内容も示しているが助産は科目数が多いため、なかなか事前学習・事後学習が追いつかない状態であったようである。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	成績は平均点78.3点で例年よりやや不良である。16名中2名が60点台がいたこと、コロナによる追試が2名いたことも影響していると判断する。					
<p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

内容的に妥当である。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

現行のカリキュラム上、この方法を継続するしかないが、その中でも「学習のための情報利用」「図書館・インターネット利用」については本年度は新型コロナウイルスで思い通りに利用できなかったが、次年度は工夫し、改善する予定である。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示ください。

助産学の基盤となり国家試験のためにも重要な科目であり、科目としては目標はほぼ達成できているが、一部成績不良の学生について定期評価まで待たず、学習支援をもっと積極的にする方法を考える必要がある。限られた時間の中でも「学習のための情報利用」「図書館・インターネット利用」を学生が積極的に行うように次年度は工夫し、改善する予定である。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	助産別科
氏名	吉村 宜純

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎助産学Ⅱ	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①助産別科は全員が資格取得を目指している。本科目は必須科目であるとともに資格取得に必要な科目である。専門職を目指す者として意欲・関心を持って講義・演習に臨む姿勢が求められる。また、本科目は理論領域であり実習や専門科目を支援する基礎科目である。</p> <p>②技術演習（医師が担当）では、超音波検査の演習を行っている。現在、ほとんどの病院やクリニックで、妊婦健診の際、医師外来および助産師外来で超音波検査を実施している。実習を考慮し、より実践に近い授業の組み立てを行っている。</p> <p>③基礎的な病態生理や症例の実際を視覚的にもわかるように講義資料や内容の工夫などを行い、学生の理解に努めている。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は80.37 (±8.63) であり、昨年の数値77.12(±8.18) より上昇した。標準レベルに達した学生は6名、理想的レベル（概ね80点以上）に達した学生は8名であった。「基礎助産学Ⅱ」は、男女のリプロダクションに関する形態・機能、疾患および治療についての講義内容であり、理解した内容を「説明ができる」ことを目標としており、基礎科目ではあるが、専門性のレベルは高いといえる。クラスの約半数の学生が理想的レベルに達しており、各学生が専門職を目指すものとして、意欲的に学習に取り組んだ結果だと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①DP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性

本科目は助産の理論領域に位置する基礎科目であり、履修は必須である。専門科目につながる学習の基盤であり、内容的には助産師として必要な知識である。内容的には妥当であるとする。

②DP、行動目標からみでの内容的妥当性

本年度のカリキュラム改正に伴い、本科目は助産の理論領域に位置する基礎科目であり、助産師として必要な知識・理解を有する科目であるため、DPの見直しを行った。ほぼ全員が欠席することなく、講義や演習に取り組んでいた。また、成績においてもほとんどの学生が、標準レベルに達しており、内容的には妥当であったとする。

以上から、内容的に妥当であるとする。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

短期間で集中的に行われる授業であり、学生が関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、他教科との課題の調整や科目間の関連性を考慮した。他教科との課題の調整などを考慮しても、助産別科の授業は集中講義であるため、どうしても課題等が重なることがある。学生がより余裕をもって、授業の課題に取り組んだり、準備をしやすかったりするために、事前に講義資料を配布するなどの工夫を行ってきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目は助産の実践領域の専門科目である。成績より、概ね標準レベルが達成できているといえる。短期間で集中的に行われる授業の中で、学生の努力がうかがえる。今後、学生が学習時間の確保ができるように引き続き、他教科と調整を図るとともに、基礎科目として持続的に学習に取り組めるよう支援してきたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	助産別科
氏名	前田 幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
母子の心理・社会学	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は助産別科の基礎科目に位置づけられている。前半は周産期の心理、マタニティサイクルの心理的特性、母性・父性の意識と親役割の獲得と関係の形成、マタニティサイクルにおけるメンタルヘルスの重要性と課題について解説した。後半は社会的側面から、現代社会における女性や子ども・家族を取り巻く特徴や課題、支援方法について解説した。講義終了後に講義の感想および質問を提出してもらい、質問に関しては次回の講義で解説した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	成績の平均値は83 (±6.10) であり、昨年度の数値74.8(±8.17)と比較すると、上昇した数値を示していた。講義の際の質問など多数寄せられており、意欲の向上に寄与したと考えられることから、本科目の目標は達成できたと考える。					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
本科目は助産の理論領域に位置する基礎科目であり、履修は必須である。その内容は、学科のDP1、DP3に対応している。専門科目につながる学習の基盤であり、内容的には助産師として必要な知識である。内容的には妥当であるとする。

②DP、行動目標からみでの内容的妥当性
本年度のカリキュラム改正に伴い、本科目は助産の理論領域に位置する基礎科目であり、助産師として必要な知識・理解、関心・意欲を有する科目であるため、DPの見直しを行った。ほぼ全員が欠席することなく、受講できていた。また、成績においてもほとんどの学生が、標準レベルに達しており、内容的には妥当であったとする。

以上から、内容的に妥当であるとする。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

本科目は助産別科の中では基礎科目に位置づけられており講義の形式をとっているが、限られた時間の中で親役割や母子関係・父子関係のプロセス、ライフサイクル各期の発達過程、周産期における女性と家族の心理、社会的側面から現代社会における女性や子ども・家族を取り巻く特徴や課題、支援方法など教授するテーマは多岐にわたっているため、授業時間内に学生同士の話し合いの時間や質疑応答の時間を設けることは難しかった。今年度はカリキュラムの改正があり、周産期におけるメンタルヘルスがより一層重要視されていることから、心理学・社会学の両側面から母子を取り巻く状況や支援について学修できるように工夫をした。今後も現場の実態に即した授業内容にしていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

成績や学生の到達度に関する自己評価から、本科目の目標はある程度達成できたと考えられる。本授業は、オムニバス方式の講義である。各担当との連携をとりながら、より学生が学びを深めることのできる講義を目指したい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	助産別科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
母子栄養学	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①母子栄養学は、周産期の健康教育において重要視される妊婦、授乳婦の食事管理、栄養管理について学ぶ必修科目の1つである。よって学生全員100%が受講動機に「必修科目である」を挙げている。今年度は「関心のある内容である」が27.3%と昨年度の7%に比較すると上がってはいるが例年より低めである。推測ではあるが、本科目に関心を抱き受講する学生の多くは、周産期看護の実務経験を持っており、妊産婦における食事や栄養の重要性を本科目受講前から理解していることが考えられる。本科目の講義を受講した結果、助産別科生が周産期における食事の重要性を理解し、関心を持ち、将来的に活用することが出来る授業内容にするよう、努力していく必要がある。</p> <p>②今年度は対面での講義であった。栄養学科同様、スライド資料を作成し配付した。資料にはポイントを書き写すことのできるスペース等も設けた。</p> <p>③学修準備性に関しては、約36%の学生が予習・復習をやってないと回答している。今年度は復習の小テストを導入したが、講義の復習はよく出来ていた。また助産別科の学生にとっては、専門の科目ではないので予習復習課題を出すことはしなかった。但し、助産別科で学ぶ間（修了後も）に母子の栄養に関する質問があればいつでも受け付けることにしている、今後もそのようにしていく。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>DP1(知識理解)、DP2(思考判断)に関しては、定期試験結果から評価した。試験結果は16名の受講生中、A(秀)が12.5%、B(優)が50%と多く、C(良)31.3%であり、優および良の割合がとて多かった。母子栄養学の理想的レベルの学生(助産別科では概ね80点以上を理想的レベルとみなす)は、AおよびB評価の学生であり、63%に及んだ。受講生全員が標準的レベルには至っており、うち理想的レベルが7割に近いことは、結果として本科目受講に対する意欲の高さのうかがえた。また学生による授業評価においては、知識理解や思考判断が高いだけに限らず、本科目の該当DPに設定していない意欲関心や技能表現に関する自己評価が高い。講義への関心の高さは、試験結果や、自己評価で判断することが出来たが、学習量の評価では、約36%の学生が予習を一度もしていないかった。今後は助産別科の他教科との関連を含めて予習・復習を促すことが出来るよう、シラバスの活用も含め、検討していく。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は、助産理論領域の基礎科目の一つであり、必修科目である。このことから、受講動機の「必修科目である」が100%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度や試験結果から、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学習量の評価では、36%の学生が予習を一度もしていないと回答した。理由としては、「他の科目や実習課題で忙しかった。」等が自由意見にあがっており、助産学を専門とする学生たちに、栄養学課題の負担はあまりかけたくないという担当の気持ちもあるため、他の周産期ケア科目の中での課題の組み込みも検討する必要があると考えている（例：長時間の陣痛、分娩時の栄養補給等）。この授業を履修する際にシラバス記載を参考にした学生は72%と高かった。今後も講義初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に実施していく必要がある。予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す。また、学生の意見の中に「講義内容が盛りだくさん」という意見があった、この意見は、毎年頂いている。講義回数が8回という関係上、周産期に限らず、幼児期、思春期および更年期の栄養学の知識も教授していかなければならないため、講義回数増も含め、助産別科教員と検討して対応していく予定である。また、「楽しく講義を受講できた。」との意見も頂き、他分野の学生でも楽しく聞けて、今後の仕事に活かすことが出来るような講義を続けたいと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目は、助産理論領域の基礎科目の一つであり、必修科目である。また現代においては、助産師による妊産婦に対する食や栄養に関する知識の教授の必要性は高い。学生の到達度評価と試験結果から2つのDPは達成できていると考える。必修科目ながらも、今後も助産別科生が本科目の内容に興味をもち、社会で活用できる栄養の知識をつけることが出来るように、学生の反応を見つつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	助産別科
氏名	前田 幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅰ(妊娠期)	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①助産診断・ケア学については演習科目であり、学生が机上での学習をふまえ、助産ケアに必要な援助技術を習得することを意図した講義を展開している。受講動機をみると「必須科目である」100.0%、「資格取得に必要な科目である」「関心のある内容である」「単位数を確保する」「GPAをあげる」の4項目が16.7%と本科目は必須科目であるとともに資格取得に必要な科目である。専門職を目指す者として意欲関心を持って講義・演習に臨む姿勢が求められる。</p> <p>②本科目では、母性看護学の知識をベースに助産の専門知識が積み重ねられるため、既に持っている学生の知識を整理しながら、主体的に学ぶことができるように工夫した。学生自身が自ら考え、意欲関心が得られるように、課題を提示して、個人ワークやグループワーク、発表、ディスカッションを取り入れるなどの工夫をした。</p> <p>③演習に関しては、演習内容を事前に提示し、自己学習を行った上で臨むようにした。実習において必須である妊婦健診や保健指導に伴う技術に関しては、より具体的にイメージができるよう模擬妊婦体験を行うとともに、基本技術の習得、妊婦と助産師役、第三者の視点も含め助産師外来のロールプレイを行い、知識理解を思考判断や技能表現に結び付けられるような内容を組み立て取り組んだ。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績の平均値は74.31点 (±5.77) であり、成績のばらつきは大きくなかった。2名の学生が理想的レベル (概ね80点以上) に達しており、11名の学生が標準レベルに達していた。DPの目的別にみると、知識理解に関しては73%、思考判断に関しては73%、関心意欲に関しては72%、態度に関しては86%、技能表現に関しては78%の標準レベルの達成度であり、真面目に演習に取り組むことが出来ていた。</p> <p>学生による授業評価の到達度自己評価においては、10項目の平均値は3.7～4.0 (点)、中央値はすべて4.0 (点) であり、概ね肯定的な評価であった。「自分なりの目標を達成した」という項目においての平均値は4.0点であり、学生自身は妊娠期という専門分野において、自分なりの目標を概ね達成できていると考える。今後も、学生が知識理解を身につけ、思考判断を行い、演習に取り組めるよう関わっていく必要がある。全体的な評価として、各学生が専門職を目指すものとして、意欲的に学習に取り組むことができたことから、教育目標は達成できたのではないかとと思われる。</p>					
*根拠として、成績 (トータルの成績、行動目標あるいはDP別) の平均値や分布 (標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「助産実践領域」のなかの「専門科目」であるが、より専門的で高度な知識と思考判断、態度、技術を身につけることが必要とされる。学習到達度の自己評価の項目では、平均値3.7～4.0点であり、一定の成績をおさめていることから、内容的には妥当であるとする。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 受講動機は、「必須科目である」が100.0%、「資格取得に必要である」「関心のある内容である」「単位数を確保する」「GPAをあげる」の4項目が16.7%とほぼ全員が欠席することなく講義や演習に取り組んでいた。また、すべてのDPにおいて、ほぼ標準レベルに達していたことから、内容的には妥当であるとする。</p> <p>以上から、内容的妥当性については問題ないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>短時間で集中的に行われる授業であり、学生が関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、他教科との課題の調整や科目間の関連性を考慮して講義を進めていった。「授業の質の評価」では、5つの項目すべてにおいて、平均値3.5～3.8点、中央値4.0点の評価であった。成績においても、標準レベルに達している状況をふまえ、授業の進め方は妥当であったと考える。今後も学生が意欲的に目標に向かって取り組めるよう課題の出し方を工夫するとともに、思考判断力を身につけることができるような授業の組み立てを行っていく。また、学生個々の理解度なども確認したうえで、助産ケアに必要な援助技術を習得できるように工夫していきたい。</p>
---	--

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総合的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目は助産の実践領域の中核となる専門科目である。授業評価アンケートより、到達度自己評価は、10項目の平均値3.7～4.0点、中央値4.0点より、概ね標準レベルが達成できているといえる。成績においても教育目標は達成できている。短時間で集中的に行われる授業の中で、さらに専門職を目指すものとして、総合的な力が向上していけるように学生の意見も取り入れながら、課題や講義・演習等の内容を検討していきたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2022年度前期

学科	助産別科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅲ(産褥期)	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>講義で得た知識や思考をいかして対象に適切な技術の提供が行えるために、自ら学ぶ能力を養うことを意図して学習計画を立案し臨んだ。</p> <p>具体的には、産褥期の生理・褥婦の変化・産褥経過・支援方法について教科書や専門雑誌を用いて解説した。次に、褥婦経過の心身の生理的变化を踏まえた、必要な支援について、教材として事例を用いて学生の思考を促すことを意図して課題を挙げ、授業の中で各自が立案した支援について、その理由を含めた意見交換・共有の時間を設けた。</p> <p>技術面については、授業で用いた事例に対して、各自が挙げた計画をいかした看護実践ができるよう、技術練習の時間を設けた。練習の中で自身の技術面を客観的に評価するために、動画を撮影し振り返りの時間を設けた。最終的には、教員による技術チェックを行い達成度を評価することとした。</p> <p>課題については、他科目の課題との関連性や提出時期などを考慮し、学生の負担とならないよう心がけた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績の平均値は81点であり、再試対象者は0名であった。全員が標準レベルに達した。</p> <p>DP別にみると、知識理解に関しては80%、思考判断に関しては78%、関心意欲に関しては80%、態度に関しては100%、技能表現に関しては90%であった。</p> <p>*学生の到達度自己評価や授業の質評価の結果も回答者全員が「そう思う」と答えており、集中講義で時間の余裕は決して多くない中で課題や自発的学習にも取り組んだことが、目標達成につながったと考える。また、コロナ禍のため基礎教育において臨地実習の経験が少ないまま、助産学実習に臨むことになってきたことも、学生の取り組み姿勢に関連していた。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は「助産の実践領域」のなかの「専門科目」であるが、より専門的で高度な知識と技術を身につけることが必要とされることから、知識理解・思考判断のほか技術表現・態度も含めた講義内容は必要である。

*受講動機は「必須科目である」100%であり、全員がまじめに講義や演習に意欲的に取り組んでおり、到達度自己評価では平均点以上であった。また、DPにおいてもほぼ標準レベルに達していたことから、内容的には妥当性があったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

上記、授業準備にそって進めた。授業のなかで意見交換や視聴覚教材も活用しイメージ化を図ることや、技術練習の時間を増やし、動画による自己の振り返りを取り入れたことは、学生の高い達成度につながったと考える。

なお、課題については、範囲や量を他教科の課題との関連をふまえ、できるだけ学生の負担とならないよう配慮した。

*授業の質の評価では、回答者全員から「そう思う」という回答がみられた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

全員が目標に達することができていた。

*到達度自己評価や授業の質の評価においてはほぼ全員が効果的であったと回答している。また、図書館や情報検索などの学習環境を活用できなかったものの、できる範囲で自ら課題に取り組む姿勢がみられ、知識理解力や思考判断力の向上につながった要因の一つであると考えている。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	助産別科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
母性の運動科学	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>妊婦運動の効果に関する研究は、数多くなされてきており（特に海外において）、授業においては、最新の研究結果をより多く紹介することによって、学生の興味・関心を引きつけられるようにした。</p> <p>昨年度までと同様、毎回の授業において理解度チェックを行うと同時に、質問を受け付けることによって、学生の理解度を把握し、理解が不十分であったと思われる事柄については次回の授業で説明を行った。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績の平均値は83.4 (±2.1) 点であった。成績分布別にみると、全員が89～80点の範囲内にあり理想的レベルに達していた。</p> <p>学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が33%、「わりにそうだと思う」が44%、「まあまあそうだと思う」が23%とすべての学生が肯定的に捉えていた (平均値4.1)。</p> <p>「知識・理解 (DP1)」に関する学生の到達度自己評価 (質問項目2と3) については、「かなりそうだと思う」が44～56%、「わりにそうだと思う」が33～44%、「まあまあそうだと思う」が11%と、すべての学生が肯定的に捉えていた (平均値4.3～4.4)。</p> <p>「技能・表現 (DP5)」に関する学生の到達度自己評価 (質問項目7と8) については、「かなりそうだと思う」が44%、「わりにそうだと思う」が44%、「まあまあそうだと思う」が12%と、すべての学生が肯定的に捉えていた (平均値4.3)。</p>					
*根拠として、成績 (トータル成績、行動目標あるいはDP別) の平均値や分布 (標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生の授業評価アンケートの結果など, できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標>						
「学修準備性」, 「学習到達度の自己評価」, 「学習量の評価」, 「学修のための情報利用」, 「図書館, インターネット利用」, 自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であるとする。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生による授業の質評価は、すべての項目とも平均値が4.1～4.7であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。しかしながら、学習量の評価についてみると、1回30分程度以上の予習、復習をまったく行っていなかった学生の割合はそれぞれ約44%、33%であった。また、授業課題以外の学習に取り組んでいなかった学生の割合は56%であった。学生の学習意欲をさらに高める工夫をする必要がある。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

目標は概ね達成できたと考える。

今後の課題としては、定期的に予習・復習を行う学生、また授業課題以外の学習に取り組む学生を増やすために具体策を考えることである。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	助産別科
氏名	田中 満由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
人間関係とコミュニケーション	1	前期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>新カリになって開講した科目である。倫理的姿勢を踏まえた看護者として必要な基礎看護技術の方法として、人間関係におけるコミュニケーション方法について知識や技法・態度を学習させることを目的として開講した。助産実践するために大変大事な基盤の科目である。担当を学内教員のみだけでなく、8コマ中3コマは学外からコミュニケーションの専門家を迎えて、授業を展開した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	成績の平均は85.5点であった。80点以上が16名中15名であった。外部講師からの評価も高く、知識の修得のみにとどまらず、積極的に演習に参加し、レポートもしっかり自分の考えが述べられていた。					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

DP、CP、カリキュラムマップにおける位置づけから内容的に妥当である。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

本科目の狙い通り、学習効果が上がったので、次年度もこの進め方で実施してよいと判断する。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

本科目の狙い通り、学習効果が上がったので、次年度もこの進め方で実施してよいと判断する。外部講師は次年度も3コマ実施の予定である。